

令和6年3月28日

令和5年度 学校関係者評価 ・ 第三者評価 報告書

奈良学園小学校

本年度の学校関係者評価・第三者評価の機会を次のように複数回設ける。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会（幼小中高合同）

- ①令和5年 11月20日（月） 13:30～15:00
- ②令和6年 3月 8日（金） 10:00～12:00

II 地域関係者による学校関係者評価委員会

- ①令和6年 11月 2日（木） 8:30～9:30

III PTA 関係者による学校関係者評価委員会

- ①令和5年 6月15日（木） 10:00～11:30 （幼小中高合同）
- ②令和5年 10月16日（月） 10:30～11:30 （小学校）
- ③令和6年 2月29日（木） 10:00～11:15 （小学校）

それぞれにいただいた評価を次にまとめ、報告する。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会

1. (1) 日時：令和5年11月20日（月） 13:30～15:00

はじめに、本日の予定を確認後、小学校の総合的な学習の時間（広島宿泊学習の振り返りの様子）の見学、M4 学年（中学2年）の英語の授業後を指導いただいた。

- (2) 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）
(3) 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、梅田小学校長、榎幼稚園園長
立花中学校教頭、日比小学校教頭、吉岡事務長
三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

- (4) 幼小中高の取り組みについて進捗状況の報告及び第三者評価者としての評価

①参観授業の感想

M4（中学2年）：Martin Luther King Jr.のスピーチを中学生向けに合わせた内容にして使われていたのは、中学生が暗唱したり勉強したりするのに良いレベルだと感じた。発音練習を一文やワンフレーズごとに丁寧に指導されていたことも良かった。反復練習は大切ではあるが飽きがきいてしまうところがある。参観授業では、飽きがこないように活動されていて良かった。

M1（小学5年）：子どもたちが詳細に記録したことや体験したことにもとづいた活動をまとめたので、具体的でかつ見学した時の気持ちがリアルに表現されていて良かった。オンラインで事前に学習できていることは、とても効果的だと感じ

た。

自分のしたことや感じたことを推敲して書くことで思考も深まっていくことも感じられた。

②各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

【幼稚園】：園で行う体力づくり、マーチング活動、日本や外国の文化を学んでいる（漢詩の素読や英語活動）こと、豊かな自然（棚田や芝生のグラウンドなど）で五感を使った活動、異学年の活動などについて説明を行う。

保護者に園の様子をより知ってもらえるように今年度よりブログだけでなく保護者ページに写真を掲載したり、玄関にも掲示したりするようにしている。

【小学校】：小学校が現在取り組んでいるユネスコスクール申請に向けて今年度どのように進めてきたかを説明する。

ユネスコスクールへの取り組みを通して、中学校以降の探求的な学びを進めていく基盤となる体験や経験を積ませ、その中で身につけられる資質能力をつけさせておくことで中学校以降の力をより自立的に発揮できるようにすることと、そして子どもたちが能動的に学ぶことへの価値観を自分たちの中に位置づけていけるようにしていきたい。

【中 高】：4年前から行っている探求学習について説明をする。

答えが一つでない課題に対して挑戦して、調べたりデータを集めたりしながら最適解に落とし込んでいく活動を行っている。間違いや失敗をおそれずに考える過程の中で学ぶことの大切さに気づかせていきたい。また、探求学習で学んだことを教科学習にフィードバックしていけるようになっていくようになれば良いと考えて進めている。

③評価者より

○探究力を育むことが幼稚園から高校の取り組みが系統立っていることが良く分かった。

○子どもたちの学びを考えたとき、異学年や異校種の交流はとても大切である。年少者にとっては将来の目標やゴールがイメージしやすくなり長期的な動機付けにつながる。また年長者にとっても責任をもって何かをやることで責任感ややりがいを感じられるようになる。そのような活動が随所で行われていることはとても良い。交流の時間を調整するのは難しいと思うが続けられるといいとも思う。

④その他 次回は来年2月末から3月初めに1年間の教育活動について意見をいただく。

2. (1) 日時：令和6年3月8日（金） 10：00～12：00

はじめに、本日の予定を確認後、幼稚園の保育の様子を、その後PI学年（小学1年）の英語の授業を参観後、M1（小学5年）とM2（小学6年）の英語のスピーチ（録画）を見ていただき、ご指導いただいた。

(2) 評価者：前田 康二（奈良教育大学 教職大学院 教授）

(3) 出席者：安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、梅田小学校長、榎幼稚園園長

立花中学校教頭、日比小学校教頭、吉岡事務長
三笠高等学校教頭（司会）、岡井小学校教頭（記録）

（４）幼小中高の取り組みについて進捗状況の報告及び第三者評価者としての評価

①参観の感想

- 【幼稚園】：・園庭で園児がのびのびと活動していて良かった。
・工作も上手でハサミやのりも上手に使っていた。
・見学に来た先生たちに園児がとても社交的な様子を見て、普段から小中高の先生が園児に関わりを持たれていることが良く分かった。
- 【小学校】：・１年生の授業で音から英語をとらえるのはとてもよい。
・英語表現の音と意味を体で表現しながら覚えるのはとてもよい。
・身体表現だけで終わっている児童がいたので、先生（音声）に続けて声に出すとさらに効果的である。

②各校種（幼稚園、小学校、中学校・高等学校）からの報告

各校種、２学期の保護者アンケート結果及び分掌・委員会の年間総括より報告を行う。

- 【幼稚園】：・保護者アンケート結果をみると概ね良い評価をしていただけた。
・小学校との連携において、コロナで行えていなかった幼小の交流が行えるようになった。また中高とはハロウィンパーティーや自然再生研究会による出前授業など様々活動ができた。
・情報提供について、保護者に園の様子を担任からも伝えているがブログや奈良学園幼稚園日記でも伝えたことはアンケート結果からも評価されていたように思う。さらに子供の様子を伝えられるように個人懇談も３学期急遽実施した。来年度は個人懇談を毎学期実施（従来は２学期のみ）の方向で検討している。
・１月１日に起こった能登地震を受けて避難訓練をし、園児に安全についての教育を行った。
・２学期は行事が多く、行事に追われる保育となっているところがあるので行事について精選や順番を変えるなど検討していく予定。
・共働きが増えていることを受け、預かり保育や担任から子どもたちの普段の様子を伝える方法についても検討が必要になっている。
・保護者が育児についての悩みをもっと相談しやすい教育相談体制を整えていく必要がある。
・園児募集に向けて広報活動を積極的に行っていく。
- 【小学校】：・志願者増に向けた広報活動として、webの活用や学校に足を運んでもらえるような有効な企画について効果検証を行いながら進めてきた結果、内部志願率や一般志願者数が微増となった。
・縦割り活動で主体的な活動が実践できる機会が確保できた。またユネスコスクールチャレンジ校としての取り組みにおいて、ユネスコ委員会を毎月行ってそれぞれの学年の活動の柱を検討し、ストーリーマップが作成できた。これらのことを通じて

教員の指導の方向性が整った。次年度はストーリーマップをもとに実践ともに教員の指導力向上も求めていく。

- ・デジタルシティズンシップ教育にもとづいた情報モラル教育を実践しているが、児童や教員だけでなく、保護者にも浸透させる必要がある。
- ・研究研修において、年間で3回の授業交流と2回の全体研を行うことができた。また、コロナ前のように事後研も参加型の研修を行えた。
- ・夏季休業中に研修 DAY を設け、入試問題の解説、特別支援教育、デジタルシティズンシップ教育、いじめ研修などを小学校全体で行えた。
- ・保護者アンケート結果をみると概ね良い評価をしていただけた。アンケート結果を受けて保護者に日頃の児童の学習の様子を見てもらえるように、来年度は公開授業 DAY（仮称）を設ける予定。
- ・行事ごとに終了後にアンケートを行い、アンケート結果をもとに行事を進めていることで、保護者も協力的にアンケートに答えてもらえるようにしていきたい。

- 【中 高】：
- ・中高スローガンの「子どもの伸び率日本一」が教員だけでなく生徒にも浸透してきている。
 - ・個別指導塾と連携した放課後自習室「尚志館」において、月一回学習カルテを保護者にフィードバックしたり、尚志館の運営管理者が教員にも生徒の学習状況を報告したりすることで、学習状況が大きく改善されている。
 - ・尚志館のチューターには本校の卒業生が8名在籍している。本校のカリキュラムや行事を知っている卒業生が学習指導や進路相談も行ってくれている。
 - ・大学探訪を実施して、志望大学にあこがれを持つだけではなく、大学でどんな研究ができるのかを OB や OG に個別に対応してくれることでより大学に関心を持てる機会となった。今年度は初めて医学部探訪も行った。
 - ・保護者に対して進路について話を今までは予備校の先生に行ってもらっていたが、今年度より進路指導部が中心となって行うようになった。
 - ・進路講演会を生徒と保護者それぞれにあった内容に変え、別々に実施することを検討している。
 - ・進路指導室が整備され、生徒が資料を見に来たり生徒だけでなく保護者も進路相談をしに来たりできるようになった。大型モニターも設置され、進路指導室でオンライン研修も受けられるようになった。
 - ・生徒指導における基本的な対応の仕方や手順、生徒理解について教員で共通理解をする機会を設けた。指導と支援の観点で対応できるようにしている。
 - ・紙ベース広告から web 媒体広告にして3年目を迎える。今年度は受験者が大幅増になった結果より本校に対する関心や期待感が高まってきたことが感じられた。
 - ・ターム留学（高1）の参加生徒はモチベーションが高く、大学受験でもよい成果をあげている。来年度はオプションで中3・高1を対象にシンガポール研修を計画している。

- ・探求学習は4年になるが、卒業生が大学の研究室やゼミでリーダーシップを発揮してくれたり多様な意見が出してムードを高めてくれたりしている。ただ、ルーブリック評価の活用に課題がある。
- ・いじめ対応について、集約会議（年2回のいじめアンケート後及び週1回の生徒指導部会）をしっかりと行って解決に向けて進められるようにしている。

③評価者より

- アンケート結果を保護者にフィードバックをすることで保護者の安心感につながるのでは、とてもよいと思う。
- 各校種からの活動が保護者アンケートの結果から見ても充実した活動になっていることが分かった。
- 尚志館の取り組みにおいて、大学でも生徒と先生の距離が近い方がモチベーションが上がるという話を聞くので、卒業生がチューターとして対応してくれるのはとても良いと思う。
- 5, 6年生の英語のスピーチを見て、先日(2/14)見せてもらった中学生の英語のプレゼンが小学校からの積み重ねであるということを改めて感じた。小学校でしっかりした教育を行っているので、中高でさらに力をつけていることが感じられた。
- 小学生にも中学生の英語のプレゼンを見せることで小学生の良いモデルとなり、子どもにとって良い手本になると思う。そして小学校の教育活動もさらに良くなると思う。

II 地域関係者による学校関係者評価委員会

日 時：令和5年 11月 2日(木) 8:40～ 9:20

評 価 者：天野イザベル文子

(登校指導サポーター、奈良市立登美ヶ丘北中学校区少年指導協議会委員、奈良市民生委員)

小学校参加者：梅田真寿美(校長)、岡井幸紀(教頭)

評 価 結 果：はじめに実際の授業や校舎内をご覧いただき、その後、本校の今年度の取り組みに対するご意見を求めた。

評価者からの意見：○子どもたちのあいさつが少ない。あいさつの大切さを理解していない気がする。

→学校でも折に触れてあいさつの大切さを伝えているが、児童が自発的にあいさつできる状態ではない。今後ももっと働きかけ児童からあいさつができるように指導していく。

○遅刻してきた児童が登校時に困っている様子が見られた。

→困っていた児童の様子を確認するとともに全体に遅れてきた時の登校の仕方を児童に確認させる。

○車で送迎してきた保護者が近隣の駐車場や路肩で児童を降ろす様子が何度か見られた。

→近隣からも苦情をもらっている内容で、学校から保護者に手紙やメール配信で注意喚起を行っている。

○2学期には解消されているが、毎年4月当初の登下校班のグループ行動が難しい状況である。教員の指示や声掛けが人によって異なっていることもその原因の一つでないかと

思う。

→教員の指導を徹底するとともに、年度内に次年度の登校班を編成し新入生以外の児童はきちんと登校できるように指導しておき、4月を迎えられるようにしておく。

Ⅲ PTA 関係者による学校関係者評価委員会

1. (1) 日 時：令和5年 6月15日(木) 10:00～11:30

(2) 評 価 者：蜂須賀雅代(登翔会会長)

佐々木雅代(高等学校副会長)、有馬由喜(中学校副会長)

太田亜賀沙(小学校副会長)、黒田衣美子(幼稚園副会長)

(3) 学校園参加者：安井幸至(総括監兼中高校長)、梅田真寿美(小校長)、槇 康二(幼稚園長)、
三笥康之(高等学校教頭)、立花正幸(中学校教頭)、岡井幸紀(小学校教頭)
日比 忍(小学校教頭)

(4) 協 議 内 容：1. 登翔会(PTA)役員へ学校関係者評価委員として委嘱をお願いする。

2. 今年度の各校園の中期計画をもとに、学校経営方針と核となる取り組みについて説明する。各校種からは以下の重点内容を中心に説明する。

(5) 各校種からの説明

【幼稚園】・小学校との連携

- ・昨年度の文部科学表彰された内容の継続
- ・地域等との連携について
- ・預かり保育の充実、課外活動の充実
→預かり保育のニーズ、小学校で行われているならとみアフタースクールとの連携
- ・園児募集について
→園児募集につながるように、幼稚園の良さをより多くの人に発信できるかを保護者の立場からの意見もいただきたい。

【小学校】・「確かな基礎学力と学びに向かう力」を重視したい。

- ・体力の向上についてもしっかりと取り組みたい。
→数年来の取り組みが、授業に向かう姿勢に変化が現れている。
- ・個別最適化した場の構築を図る。
- ・ユネスコスクール加盟への申請を行っている。
→1年間の審査期間を経て決定。
- ・系統的な探究活動の実施計画の作成・試行。
- ・基礎学力を育てる具体的な方策→主体的な学習の必要性
- ・道徳に対する取り組みの充実。
- ・年間を通して、家庭に対して児童の学習活動の様子だけでなく、学習のねらいなどを通信等で発信していく。
- ・進路指導の充実
→内部進学が近づく M1,M2 での内容、プライマリーからの積み上げの必要性等

- ・子供が主体的に活動できるように、さまざまな学習の方向性を掴み、そこへ向かっていく必要性を感じさせたい。
- ・広報活動も含めて、紙媒体のみではなく、Web 媒体を利用した有効な方法で学校情報の発信していけるようにする。

【中学校・高等学校】

- ・尚志館の活用について→運営指導員の変更及び教員がチューターとして指導
- ・道徳教育・特別活動の位置づけにおいて中学年代での取り組みを充実させる。
- ・AUS 語学研修について
- ・総合的な学習時間の充実
→探究活動の体制を整備し、活動内容が充実してきている。活発的な活動の成果、座学では見せない姿、新たな一面が発掘されることとなっている。
- ・人権教育において、学年に推進委員を置くことで幅広い取り組みに繋がっている
- ・生徒指導について、学習に集中しづらい生徒への配慮や事象発覚時には指導の早期対応。いじめに関するアンケート、気づきシートの活用。
- ・進路指導について、数値(中期計画に表記)に表した具体的な取り組みを行っていく。昨年度より大学探訪の再開し、本年度は医学部の計画を立てている。難関大学への進学実績につなげる。
- ・特別支援教育について、発達にアンバランスのある生徒への配慮。担任、学年が中心で対応を行っていくが、教育相談やSCも活用しながら進めていく。
- ・さらによい学校を作っていくために未来戦略会議を立ち上げ検討を行う。
- ・生徒募集について、SNSを通じた広報の充実を図る。昨年度より受験料の変更し、「とりあえず受験」を無くす。
- ・施設、設備の改善について登翔会からの協力を感謝している。

(6) 保護者からの意見【幼稚園】○教員の充実をお願いしたい。

○幼稚園通用門のセキュリティーについて短時間ではあるが不十分なことがあるので改善してほしい。

【小学校】○体かづくりの取り組みについて効果が出ていることが聞けて良かった。

【中 高】○未来戦略会議期待している。

【全体に対して】

○正門前の卒業記念品のモニターについて、今以上に有効的に活用してほしい。

○児童、生徒が間違わないように小学校職員室前のトイレが職員や来客者専用であることが分かりやすい表示にするか、全体への指導を行ってほしい。

(7) そ の 他 ・MI (小5) 以上で使用するリュックサックの修正について

- 修正した生地や仕様は、好評であった。
- ・9月末実施の合同運動会について実施形態等について相談。

2. (1) 日 時：令和5年10月16日(月) 10:30～11:30
- (2) 評価者：蜂須賀雅代(登翔会会長)、太田亜賀沙(小学校副会長)
- (3) 学校園参加者：梅田真寿美(小校長)、岡井幸紀(小学校教頭) 日比 忍(小学校教頭)
- (4) 評価結果：小学校全体での取り組みについては、大変安心でき満足度も高い、という意見をいただいた。その後、細部における意見をいただく。
- (5) 保護者からの意見：○次の学年以降の予定を早めに知りたい。また、P生の保護者にM1以降の学校生活や内部進学制度等について知れる機会が欲しい。
- ・次年度以降のことが決まっていることは、事前に学年通信等で早めに知らせていく。
 - ・毎年、P4保護者対象にM課程説明会を配信しているが、今年度はP3保護者にも案内してM課程での学校生活について伝えるようにする。
- P3-M1の学校説明会とP1宿泊学習の解散が重なるので、説明会が聞きにくい状況になっている。
- 説明会の対象学年以外も預かり対応をしていく。
- 子どもから授業が延長した時に休み時間が無くなるという意見を聞く。
- つつい授業に熱が入って授業を延長してしまうことがあるが、時間内で収まるように授業展開を心がけ、休み時間の確保を行っていく。
- 給食の献立にパンやデザートがほとんどなく、残念に思う児童がいる。かつて小学校の保健・給食委員会と魚国さんが協力して献立を考えるなどの企画があったように子どもたちで献立の投票をして人気メニューがでるなど楽しめるようにしてもらえればと思う。

3. (1) 日 時：令和6年2月29日(木) 10:00～11:15
- M2 基礎体力チェック及び中学年の授業の様子をご覧いただくとともに、本校の今年度の取り組みに対するご意見を求めた。
- (2) 評価者：蜂須賀雅代(登翔会会長)、太田亜賀沙(小学校副会長)
- (3) 学校園参加者：梅田真寿美(小校長)、日比 忍(小学校教頭)
- (4) 評価結果：第2回保護者アンケートの結果を見ていただきながら話を進める。
- 前回に引き続き小学校全体での取り組みについては、大変安心でき満足度も高いという意見をいただいた。その後、細部における意見をいただく。
- (5) 保護者からの意見：○アンケート項目④情報提供については漠然としていて答えづらいという意見がある。何をもって評価してよいかわからない。
- 日々の様子等お子様についての情報はできるだけ伝えていこうとはしている。来校していただく機会も増やすことができている。本当の日常を見ていただくことをより多く設けていきたい。そうすることで答えやすくなってくると考え

る。

○行事がコロナ前の状態に戻ってきて非常によかったと思う。

→今後もできるだけ子どもの自主性を高められる活動にしていきたい。

M2ハワイ宿泊学習でのハワイ大学生との活動が非常によかった。

(宿泊学習を中心とする「ユネスコスクール」についての概要説明を行い、)次年度以降も探究力養成に重点を置いていきたい。

○情報機器の活用については非常に満足している。学校に来にくい子どももオンラインでつながれるのはよいと思う。

→家庭へ持って帰る頻度については現在検討中だが、今後のデジタル化を見越して、できるだけ持ち帰りの頻度を高めていきたいと考える。

生成AIについては上手に活用できるように学校としても検討していきたい。

デジタルシチズンシップについても身につけさせたい。

○Chromebookの買換えによって古い物の処理に困っている、下取りなどがあればありがたいという声を聞く。

→買換えの時期は予定していた時期ではなく、もう少し長く使っていただけるようにしたが、下取りについてはなかなか難しい。

○MIでもアフタースクールで預かってもらいたいという声が多い。

→次年度はMIも預かり可能にしていく。

○土曜日に授業するかどうかについて改めて検討していただくことはできないか。半日授業を1日授業にするなどで対応することはできないか。

→教員の働き方改革や授業時数の確保等を鑑みて検討はしていきたい。

○保護者の意見に振り回されず、子どもの意見を大事にした行事運営をしてほしい。

→子どもたちの意見を尊重した行事運営をしていることを保護者の方により伝えるようにしていきたい。